

帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科
ご入学手続き者および保護者の皆様へ

帝京大学 医療技術学部柔道整復学科
学科長 安田秀喜

「帝京スタートプログラムー自分流の修得に向けてー」について

拝啓

この度は、帝京大学医療技術学部柔道整復学科への合格、誠におめでとうございます。

本学では、入学前教育を「帝京スタートプログラムー自分流の修得に向けてー」と名付け、主体的な学びを支援します。

柔道整復学科では、以下の課題を通じて専門基礎科目へのスムーズな導入を図ります。

・医療用語集

医学用語の語彙・読み・意味を確認し、初年次の専門基礎科目（解剖学・生理学）に備えます。

※提出不要ですが、授業理解に大変有用ですので、必ず目を通してください。

・柔整学科課題

一般社会で頻度の高いケガやスポーツ外傷を調べ、原因・症状・治療法・リハビリ・合併症などを自ら調べてまとめます。

目的：柔道整復師の役割理解を深め、臨床的視点を養う。

・生物課題

高校で学んだ生物の基礎知識を復習し、消化・吸収・遺伝子の働きなどを文章で説明します。

目的：専門基礎科目（解剖学・生理学）への橋渡しを目指します。

提出期限

第1回目提出期限：2026年1月23日(金)

第2回目提出期限：2026年2月13日(金)

第3回目提出期限：2026年3月6日(金)

重要なお知らせ

※ 12月20日(土)「入学前ガイダンス」にて、課題説明と「生物課題」参考書を配布予定です。

※ 「柔整学科課題」「生物課題」の詳細は次ページをご確認ください。

※ 提出形式：Wordファイルで、下記メールアドレスへ送付してください。

これらの課題は1年次の夏のセミナー合宿で振り返りに活用します。

4月に皆様とお会いできますことを、楽しみにしております。

敬具

【問い合わせ先】〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1

帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科 帝京スタートプログラム運営チーム：

荒木誠一、星秀夫、阿部弘之、渡邊杏夢、渡邊茉乃果、坪島功幸

E-mail: ml_teikyo-uc jt@teikyo-u.ac.jp

(エムエル)

柔整学科課題

下記の A～K に挙げたケガやスポーツ外傷の中から 3 つ選び、①～⑧の内容について、インターネットや図書館等で調査して、学習課題用紙（A4 用紙）にそれぞれ 2000 字以内でまとめてください。

※ 1 回ごとに 1 テーマを選択してください。

※ ケガやスポーツ外傷（A～K の中から 3 つ選んでください。）

- A) 足関節捻挫
- B) 膝前十字靱帯損傷
- C) 膝半月板損傷
- D) 指の靱帯損傷
- E) 腰のヘルニア
- F) 肉離れ
- G) 指の骨折
- H) 鎖骨骨折
- I) 肩関節脱臼
- J) 肩鎖関節脱臼
- K) 上記以外の自分自身が経験したケガやスポーツ外傷

※ まとめる内容は、①～⑧について必ず記載してください。

- ① そのケガの発生する原因
- ② 症状の程度（分類）
- ③ 治療法
- ④ リハビリ方法
- ⑤ 合併症
- ⑥ 自分が経験（体験）した内容
- ⑦ その他、「なるほど！」と思った内容
- ⑧ 引用文献（ホームページや書籍など）

※ メールで「柔整学科課題」を送付する際の注意点

- ・提出形式は、必ず Word ファイルにて送付してください。
- ・Word のファイル名は、「受験番号、氏名、第〇回柔整学科課題」にしてください。
- ・Word のファイル内にも「受験番号、氏名」を入力してください。
- ・メール件名は、「受験番号、氏名 【第〇回柔整学科課題_年内合格者用】」にしてください。

わからないことがあれば、ml_teikyo-ucjt@teikyo-u.ac.jp までご連絡ください。

（エムエル）

生物課題

課題目的

この課題は、高校で学んだ「生物」の内容をふり返りながら、大学で学ぶ専門基礎科目（解剖学・生理学）へのスムーズな橋渡しを目指しています。

生物や生物基礎を履修していない方、文系出身の方でも安心して取り組めるよう、基礎からやさしく学べる内容になっています。

大学での学びの第一歩として、無理なくスタートできる課題です。

提出はすべて Word 形式でお願いいたします。

参考図書

沖永寛子（監）、安西偕二郎（著）：医療系専門科目へつながる生物学—消化から学ぶ人体のしくみ、

羊土社、東京、2025.

- ・ 2025 年 12 月下旬に開催予定の「入学前ガイダンス」にて、上記参考書を配布いたします。
- ・ ご欠席の場合は、後日、本学よりご自宅宛に郵送させていただきます。

課題内容

第 1 回課題「遺伝子と体の設計図のはたらきを説明する。」

提出期限：2026 年 1 月 23 日（金）

私たちの体には「遺伝子」と呼ばれる体の設計図があります。この設計図は細胞の中で大切に保存され、体に必要なたんぱく質をつくるために使われます。DNA や RNA といった専門用語を紹介しながら、遺伝子がどのように体の働きを支えているのかを、1000 字程度で説明してください。

ねらい：

遺伝子がどのようにして情報を保存し、体に必要なたんぱく質をつくるのかを理解する。体の設計図（DNA→RNA→タンパク質）の流れを学ぶことで、生物の知識を解剖学や生理学の学びにつなげる。

第 2 回課題「食べ物が分解され、体で使える形になるまでをまとめる。」

提出期限：2026 年 2 月 13 日（金）

私たちが食べる炭水化物・たんぱく質・脂肪は、そのままでは体で使えません。消化酵素によって細かく分解され、体に吸収されて初めてエネルギーや材料になります。それぞれの栄養素がどんな酵素で分解され、最終的にどのような形で体に取り込まれるのかを文章（1000 字程度）でまとめてください。また、吸収されたアミノ酸が遺伝子の設計図をもとにして新しいたんぱく質になる仕組み（DNA→RNA→タンパク質）についても説明してください。

ねらい：

食べ物が体に取り込まれ、使える形に変わる流れを理解する。さらに、食べたものが遺伝子の仕組みを通して体の一部（たんぱく質）になることを学び、生理学や解剖学の理解へと広げる。

第3回課題「小腸の構造と吸収のしくみを説明する。」

提出期限：2026年3月6日(金)

小腸は食べ物から栄養を吸収する、とても大切な場所です。小腸の内側には「絨毛（じゅうもう）」や「微絨毛（びじゅうもう）」といった小さな突起があり、表面積を大きくすることで効率よく栄養を取り込みます。小腸がどのような構造をしていて、どのように栄養を吸収しているのかを、図を使わずに文章（1000字程度）で説明してください。また、小腸には「免疫」の役割もあり、体を病気から守っています。さらに、吸収された栄養素が細胞の中でたんぱく質に作り変えられる過程（DNA→RNA→タンパク質）にも触れてください。

ねらい：

小腸の形と働きを関連づけて理解する。消化・吸収・免疫という3つの役割を整理し、取り込んだ栄養が体の中でどう使われるのかを学ぶことで、生物の基礎を解剖学や生理学の理解へと発展させる。

※ メールで「生物課題」を送付する際の注意点

- ・提出形式は、必ずWordファイルにて送付してください。
- ・Wordのファイル名は、「受験番号、氏名、第〇回生物課題」にしてください。
- ・Wordのファイル内にも「受験番号、氏名」を入力してください。
- ・メール件名は、「受験番号、氏名 【第〇回生物課題_年内合格者用】」にしてください。

わからないことがあれば、ml_teikyo-uc.jt@teikyo-u.ac.jp までご連絡ください。

(エムエル)